

## ◆ 平成 30 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 見沼ファーム 2 1

21A-09

代表者：理事長 島田由美子

URL : <http://www.minuma-farm21.com/>

---

### 1. 活動が必要とされた状況

当会の活動の基盤は、さいたまの環境資産であり、貴重な緑地空間を提供する見沼たんぼを荒廃から守ること及び見沼たんぼの理解者を拡げることです。主な活動は、県より受託した公有地体験水田活動及び個人より受託した援農田の米作りです。会発足から 20 年を経過して、この軌跡を記念誌として記録し、ご支援頂いた農家諸氏、民間団体、公共団体に謝意を表すと共に、会員の認識を深め、今後の活動の指針にも役立てたいと思います。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 近年見沼田んぼの保全について平成 10 年「見沼田圃公有地化事業」が発足しました。これを契機に「見沼たんぼ体験水田・米作り活動」を県に呼びかけ、平成 11 年有志及び支援農家による「見沼ファーム 2 1」を結成して、県との協働事業がスタートしました。また個人田の「農作業の受委託契約」に従い、平成 20 年より援農田として着手しました。
- ・ 今日では公有田 9 か所 23 反、援農田 11 農家 55 反の規模に至り、サイサン環境保全基金の助成を頂き、多くの動力農機導入により増大した稲作作業を円滑に遂行しております。
- ・ 体験水田活動を通じた生きもの調べ、わらを利用した積みわら「フナノ」製作、わら細工伝承等の文化・教育事業にも取り組んでおります。
- ・ 当会へのニーズの円滑な対応を計るためにも組織的な基盤を強化すべく、平成 20 年に NPO 法人に移行しました。20 周年記念誌発行に向け、平成 29 年編集委員会が発足しました。

### 3. 活動の成果

- ・ 14 回の編集会議を経て、編集指針の確認、基礎資料の収集、原稿作成に努め、昨年 12 月入稿を終了して、今年 1 月発行に至りました。（48 頁、500 部発行）
- ・ 1 月、当会会員参加の下、支援頂いた行政及び民間機関、支援農家、見沼たんぼ関係諸団体を招いて「20 周年記念の集い」を開催して、感謝の意を伝えました。（総勢 80 名程）
- ・ 記念誌配布先は、当会会員、助成を頂いた企業、県市関係機関、見沼田んぼ諸活動団体、福祉貢献米提供先の団体、学校ファーム関係校を予定しております。



### 4. 今後に残された課題

記念誌作成に当たり会員のアンケート調査を行った結果、会員の現況は、70 才以上が約 6 割に達しました。このため 30~50 代の現役世代や 60 代定年予備軍の勧誘を進めて、世代バランスの確保が急務となってきました。現状規模の維持を基本としつつも中長期的に見沼田んぼに関わる後継農家や関連団体、行政等と幅広く連携するなど、多様な主体とネットワークによる持続的な取り組みが必要と考えます。